夏の部

No.	作句年	部	俳　　句	季語	分類
4859	明治36年	夏の部	草合草に佳き名をつけにけり	草合	人事
4860	明治36年	夏の部	御子羅子の田植めでたし神の國	田植	人事
4861	明治36年	夏の部	月下ばら剪て香に驚きぬ	薔薇	植物
4863	明治36年	夏の部	初袷眼は黄巻にかゞやきぬ（青々）	袷	人事
4864	明治36年	夏の部	初袷酒のまぬ人細長し（四方太）	袷	人事
4865	明治36年	夏の部	初袷それにつけても烟草哉（紅緑）	袷	人事
4866	明治36年	夏の部	初袷うれしよき酒三オンス（鳴雪）	袷	人事
4867	明治36年	夏の部	初袷今の世の句をさげしみぬ（碧梧桐）	袷	人事
4868	明治36年	夏の部	初袷今はた醉ひて謠ひけり（虚子）	袷	人事
4869	明治36年	夏の部	雷や赫と日のさす桐の花	桐の花	植物
4870	明治36年	夏の部	夏座敷暮れて吹入る艸木の香	夏座敷	人事
4871	明治36年	夏の部	経よめば夏断の腹の鳴ることよ	夏断	人事
4872	明治36年	夏の部	夕立や雹もまじりて紅藍花畑	夕立	天文
4873	明治36年	夏の部	御神庫に銀杏の若葉輝けり	若葉	植物
4874	明治36年	夏の部	薬日の鼎の塵を掃ひけり	薬日	人事
4875	明治36年	夏の部	かりそめにかみ試みつ薬摘	薬日	人事
4876	明治36年	夏の部	薬ふる我庭黄ばむ梅一樹	薬ふる	天文
4877	明治36年	夏の部	薬狩いやしからざる主從かな	薬日	人事
4878	明治36年	夏の部	薬草を採り薬草を干す一日哉	薬日	人事
4879	明治36年	夏の部	競かりこの頃道士庵にあり	競馬	人事
4881	明治36年	夏の部	耳あれば天地五月の雲の音	五月	時候
4883	明治36年	夏の部	この頃の日ッ本の國あけやすき	短夜	時候
4884	明治36年	夏の部	五月雨やいって追手が呼ばふ声	五月雨	天文
4885	明治36年	夏の部	眼の前の紅花盛りなり夏霞	紅花	植物
4886	明治36年	夏の部	簟童子も雲の奇を了す	簟	人事
4887	明治36年	夏の部	等閑に茶の湯もすなり簟	簟	人事
4888	明治36年	夏の部	陶に水飯空し簟	簟	人事
4889	明治36年	夏の部	婆子饒舌梅干の壷仆しけり	梅干す	人事
4890	明治36年	夏の部	葛水の其交や君子也	葛水	人事
4891	明治36年	夏の部	夏神樂水浴びて来る神馬哉	夏神樂	人事
4892	明治36年	夏の部	露凉し朴の林の朝日影	夏の露	天文
4893	明治36年	夏の部	露凉し軒端の草に茶の煙	夏の露	天文
4894	明治36年	夏の部	露凉し林檎熟して紅に	夏の露	天文
4895	明治36年	夏の部	露すゞし保津の朝川くだり舟	夏の露	天文
4896	明治36年	夏の部	露凉し木末に消ゆるはゝき星	夏の露	天文
4897	明治36年	夏の部	青芒山家の鍋に洗飯	青芒	植物
4898	明治36年	夏の部	短夜の人や丘見の皃白き	短夜	時候
4899	明治36年	夏の部	短夜や人をあやしむとめ木の香	短夜	時候
4900	明治36年	夏の部	短夜の曉一しきりちり松葉	短夜	時候
4901	明治36年	夏の部	短夜のありのすさびも掃かれけり	短夜	時候
4902	明治36年	夏の部	雨五月いつこ鶯啼にけり	五月雨	天文
4903	明治36年	夏の部	五月雨や家をめぐりて当帰畑	五月雨	天文
4904	明治36年	夏の部	紫陽花の妬げに見えてさみだるゝ	五月雨	天文
4905	明治36年	夏の部	五月雨の棗色づく日の光り	五月雨	天文
4906	明治36年	夏の部	柚の花は香にこぼれけり棕梠の花	棕梠の花	植物
4907	明治36年	夏の部	棕梠の花風雨頻りに至る夕	棕梠の花	植物
4908	明治36年	夏の部	野雀や棕梠の莟を弄ぶ	棕梠の花	植物
4909	明治36年	夏の部	棕梠の花庭木の中にかそへけり	棕梠の花	植物

夏の部

No.	作句年	部	俳　　句	季語	分類
4910	明治36年	夏の部	花棕梠の畑は四月の天氣哉	棕梠の花	植物
4911	明治36年	夏の部	花棕梠や畑の隅なる青山椒	棕梠の花	植物
4912	明治36年	夏の部	絵日今にかくれて兒のありきけり	日傘	人事
4913	明治36年	夏の部	日今して舟に河水を掬ひけり	日傘	人事
4914	明治36年	夏の部	藍刈と物打語る日今人	日傘	人事
4915	明治36年	夏の部	日今たゝみ林檎の下に立寄りぬ	日傘	人事
4916	明治36年	夏の部	短夜の聞知らぬ鳥山の宿	短夜	時候
4917	明治36年	夏の部	短夜の皃も洗ハず鴉かな	短夜	時候
4918	明治36年	夏の部	島原を畑に見てゆく日今哉	日傘	人事
4919	明治36年	夏の部	青梅を人の日今につふて哉	雑	雑
4920	明治36年	夏の部	短夜を鳴残る蛙一ツ哉	短夜	時候
4921	明治36年	夏の部	五月雨や杉伐仆す橋わたし	五月雨	天文
4922	明治36年	夏の部	獨活畑のうど採尽す棕梠の花	棕梠の花	植物
4923	明治36年	夏の部	机に灯古人蚊をやく辞あり	蚊	動物
4924	明治36年	夏の部	棕梠の花竹原出る小嘍囉	棕梠の花	植物
4925	明治36年	夏の部	五月雨道にふまるゝあやめ草	五月雨	天文
4926	明治36年	夏の部	五月雨や塩くさき飽く蕨汁	五月雨	天文
4927	明治36年	夏の部	短夜の餘花にあけたり山かつら	短夜	時候
4928	明治36年	夏の部	短夜の牡丹を惜む主かな	短夜	時候
4929	明治36年	夏の部	蚊を打て再び呪文高らかに	蚊	動物
4930	明治36年	夏の部	目をとぢて蚊の鳴く方を定めけり	蚊	動物
4931	明治36年	夏の部	冷飯に蚊も秋近くなりにけり	蚊	動物
4932	明治36年	夏の部	曉の蚊の乾をさして飛去りぬ	蚊	動物
4933	明治36年	夏の部	戀に蚊に物の哀を覚えけり	蚊	動物
4934	明治36年	夏の部	昼の蚊やみすより人を覗く程に	蚊	動物
4935	明治36年	夏の部	大佛や日今かたげて人のゆく	日傘	人事
4936	明治36年	夏の部	かちわたり河原をありく日今哉	日傘	人事
4937	明治36年	夏の部	顔や日今の中の日の匂ひ	日傘	人事
4938	明治36年	夏の部	日今たゝめば木間もる日や顔に照る	日傘	人事
4939	明治36年	夏の部	花棕梠やかたち醜き寺男	棕梠の花	植物
4940	明治36年	夏の部	花棕梠や寺僧頑に叱る声	棕梠の花	植物
4941	明治36年	夏の部	さみだるゝ牧場に馬もなかりけり	五月雨	天文
4942	明治36年	夏の部	蚊をやくや夜の活花蚊帳越に	蚊	動物
4943	明治36年	夏の部	うはなりのひた憎む蚊や古行灯	蚊	動物
4944	明治36年	夏の部	蝋燭や法幢に蚊も寄つかず	蚊	動物
4945	明治36年	夏の部	五月雨やよしある里の花かつみ	五月雨	天文
4946	明治36年	夏の部	五月雨の雲や柴胡のむら茂り	五月雨	天文
4948	明治36年	夏の部	ゆけ、われ蛇斬ると夢みたり	蛇	動物
4949	明治36年	夏の部	河骨に蜻蜓始めて飛ぶ日哉	蜻蛉	動物
4950	明治36年	夏の部	水馬頻りに飛ぶも恋の事	水馬	動物
4951	明治36年	夏の部	薫風や故郷の路の花茨	薫風	天文
4952	明治36年	夏の部	凉しさにラムネの玉を鳴らしけり	凉し	時候
4953	明治36年	夏の部	ふじ詣裾野の小家立出でぬ	富士詣	人事
4954	明治36年	夏の部	鄙の宿燈心草も花咲きぬ	燈心草の花	植物
4955	明治36年	夏の部	黄梅の雨や寺僧の詩三昧	黄梅	植物
4956	明治36年	夏の部	風凉し龍をはしらす墨の痕	凉し	時候
4957	明治36年	夏の部	若竹に小督の墓を弔へり	若竹	植物
4958	明治36年	夏の部	燕子花活けあまりたる廣葉哉	杜若	植物

夏の部

No.	作句年	部	俳　　句	季語	分類
4959	明治36年	夏の部	葛水や老来の歯も爽かに	葛水	人事
4960	明治36年	夏の部	うの花の主と申せ蝸牛	蝸牛	動物
4961	明治36年	夏の部	あちさゐや小家にしるき異種	紫陽花	植物
4962	明治36年	夏の部	雲の峰日たゝ西吹く形哉	雲の峰	天文
4963	明治36年	夏の部	あちさゐに或はかゝるゝ寺子哉	紫陽花	植物
4964	明治36年	夏の部	葛水や馬も涼しき木下蔭	葛水	人事
4965	明治36年	夏の部	絵扇をすさびにすなる力士哉	絵扇	人事
4966	明治36年	夏の部	角ふるや物きゝわけてかたつむり	蝸牛	動物
4967	明治36年	夏の部	大衆の打眠うかがふ蝸牛	蝸牛	動物
4968	明治36年	夏の部	紫陽花の色に迷へり蝸牛	蝸牛	動物
4969	明治36年	夏の部	伸上りてゝむし思ふ所あり	蝸牛	動物
4970	明治36年	夏の部	雲の峰六尺の百合花開く	雲の峰	天文
4971	明治36年	夏の部	王城の鬼門に当り雲の峰	雲の峰	天文
4972	明治36年	夏の部	ちるけしの葉末や雲峰低し	雲の峰	天文
4973	明治36年	夏の部	君が手の扇の影や草合	扇	人事
4974	明治36年	夏の部	扇つかひ顔に紅うつりけり	扇	人事
4975	明治36年	夏の部	あちさゐのいやしき様や夜店の灯	紫陽花	植物
4976	明治36年	夏の部	紫陽花に蛇打逃がす茂り哉	紫陽花	植物
4977	明治36年	夏の部	紫陽花に日うとき樫の廣葉哉	紫陽花	植物
4978	明治36年	夏の部	葛のんで土器に水そゝきけり	葛水	人事
4979	明治36年	夏の部	草清水人こほし去る葛粉哉	清水	地理
4980	明治36年	夏の部	葛水や白衣は人の潔き	葛水	人事
4981	明治36年	夏の部	市中の一本杉や雲の峯	雲の峰	天文
4982	明治36年	夏の部	床の間のあやめの丈や扇掛	あやめ	植物
4983	明治36年	夏の部	祭見る村のしこめも扇哉	扇	人事
4984	明治36年	夏の部	あけやすき我が宿水の音ばかり	短夜	時候
4985	明治36年	夏の部	栗の花颯然として雨到る	栗の花	植物
4986	明治36年	夏の部	夏の神夜は卽ち白衣哉	夏	時候
4987	明治36年	夏の部	夏ざしき夕日が少しあたりけり	夏座敷	人事
4988	明治36年	夏の部	夏羽をり飄々として庭ありき	夏羽織	人事
4989	明治36年	夏の部	羽拔鳥蓴とる子の鼻の先	羽拔鳥	動物
4990	明治36年	夏の部	朝皃の苗に斑入をえらびけり	朝顔の苗	植物
4991	明治36年	夏の部	舟遊び舳に當り三日の月	舟遊	人事
4992	明治36年	夏の部	舟遊水の流に茶の烟	舟遊	人事
4993	明治36年	夏の部	舟遊眉をあぐれば嵐山	舟遊	人事
4994	明治36年	夏の部	舟遊舟ばたに立つ美少年	舟遊	人事
4995	明治36年	夏の部	舟遊去来は酒に遠さかり	舟遊	人事
4996	明治36年	夏の部	かへり見る活花の間や簟	簟	人事
4997	明治36年	夏の部	簟少し日当る朝の程	簟	人事
4998	明治36年	夏の部	簟独坐に近き月見艸	簟	人事
4999	明治36年	夏の部	簟足ふみ伸ばす雲の上	簟	人事
5000	明治36年	夏の部	簟星を懐ろなる思	簟	人事
5001	明治36年	夏の部	簟花が目につく女童	簟	人事
5002	明治36年	夏の部	蚊帳越や夜の活花白き花	蚊帳	人事
5003	明治36年	夏の部	蚊帳去るや枕に近く青表紙	蚊帳	人事
5004	明治36年	夏の部	蚊帳の中故人は旅につかれけり	蚊帳	人事
5005	明治36年	夏の部	蚊帳を出て夏朝皃に見入りけり	蚊帳	人事
5006	明治36年	夏の部	稲妻に玉巻芭蕉秀でたり	芭蕉玉巻	植物

夏の部

No.	作句年	部	俳　　句	季語	分類
5007	明治36年	夏の部	風鈴に新体の詩を咏じけり	風鈴	人事
5008	明治36年	夏の部	昼皃や道に死居る蝉暑し	晝顔	植物
5009	明治36年	夏の部	甘酒に客昼の蚊を憎みけり	蚊	動物
5010	明治36年	夏の部	目すゞしく眉秀でたり夏書人	夏書	人事
5011	明治36年	夏の部	ラムネのむやいさゝかの酒の醉心地	ラムネ	人事
5012	明治36年	夏の部	大原女の面もふらず草いきれ	草いきれ	植物
5013	明治36年	夏の部	法の風蓮の花の開く音	蓮	植物
5014	明治36年	夏の部	蓴つみ蓮の浮葉もたぐりけり	蓴菜	植物
5015	明治36年	夏の部	盆栽の蓮も咲いて水乏し	蓮	植物
5016	明治36年	夏の部	蓮の花くわゐの花も咲きにけり	蓮	植物
5017	明治36年	夏の部	蓮やせて浮草茂り咲にけり	蓮	植物
5018	明治36年	夏の部	蓮伐るや雨に驚く僧のさま	蓮	植物
5019	明治36年	夏の部	蓮さげて本堂をゆく尊さよ	蓮	植物
5020	明治36年	夏の部	白蓮の旦紅蓮の夕かな	蓮	植物
5021	明治36年	夏の部	河骨の群がり咲くや蓮の花	蓮	植物
5022	明治36年	夏の部	蓮見んと行くや蓮の朝月夜	蓮	植物
5023	明治36年	夏の部	銀燭や坐に水飯のうつはもの	水飯	人事
5024	明治36年	夏の部	水飯や皆銀のうつはもの	水飯	人事
5025	明治36年	夏の部	水飯や精進の日の昼灯	水飯	人事
5026	明治36年	夏の部	杣人の洗ひこぼしぬ洗飯	水飯	人事
5027	明治36年	夏の部	水飯や詩は性霊を貴べり	水飯	人事
5028	明治36年	夏の部	水飯や簀戸に遮る雨しぶき	水飯	人事
5029	明治36年	夏の部	水めしや紫陽花の色暮近き	水飯	人事
5030	明治36年	夏の部	水飯に昼の蚊一ツ見たりけり	水飯	人事
5031	明治36年	夏の部	水飯や句は天明を喜べり	水飯	人事
5032	明治36年	夏の部	水飯に奈良漬の香を憎みけり	水飯	人事
10581	明治36年	夏の部	蝙蝠や過て怪しきオロシヤ人	蝙蝠	動物
10595	明治36年	夏の部	蟷螂の生るゝ見ても佛かな	蟷螂	動物
10609	明治36年	夏の部	眠る山夫の洞庭の眺めかな	眺め	人事
5330	明治37年	夏の部	火事跡や風雨乱るゝ桐の花	桐の花	植物
5331	明治37年	夏の部	輪奐の美にかゞやけり桐の花	桐の花	植物
5332	明治37年	夏の部	鬱として野に垂る雲や桐の花	桐の花	植物
5333	明治37年	夏の部	桐の花落ちて微風を見たりけり	桐の花	植物
5334	明治37年	夏の部	花桐の露や残礎を乱れうつ	桐の花	植物
5335	明治37年	夏の部	歌人や羽拔の鳥に寄する戀	羽拔鳥	動物
5336	明治37年	夏の部	夏帽や皆林泉の客ばかり	夏帽子	人事
5337	明治37年	夏の部	夏座敷小寒きばかり雨中の景	夏座敷	人事
5338	明治37年	夏の部	梅雨晴に長袖の人や花棗	棗の花	植物
5339	明治37年	夏の部	避暑の客名を題壁に知られけり	避暑	人事
5340	明治37年	夏の部	午睡して居れば官人抂駕かな	晝寢	人事
5341	明治37年	夏の部	竹婦人東坡は室に居残りぬ	竹夫人	人事
5342	明治37年	夏の部	夏菊や婆子に詩を問ふ白樂天	夏菊	植物
5343	明治37年	夏の部	水飯を喰こぼしけり長廣舌	水飯	人事
5344	明治37年	夏の部	貴人の前扇の風のあまり哉	扇	人事
5345	明治37年	夏の部	蝿を打つ臥龍先生二十八	蝿	動物
5346	明治37年	夏の部	はひを打つ惡道心が眼かな	蝿	動物
5347	明治37年	夏の部	夕立や物に恐るゝ蝿一つ	蝿	動物
5348	明治37年	夏の部	蝿を避けて庭の棗に遊びけり	蝿	動物

夏の部

No.	作句年	部	俳　　句	季語	分類
5350	明治37年	夏の部	蝿叩から／＼と笑ひ給ふらん	蝿	動物
5351	明治37年	夏の部	枕頭の山水蚊帳に賓主かな	蚊帳	人事
5352	明治37年	夏の部	よき蚊帳も釣て松風蘿月哉	蚊帳	人事
5353	明治37年	夏の部	偸見る蚊帳にうまゐの皃白し	蚊帳	人事
5354	明治37年	夏の部	石山の旅泊や夏の夕ありき	夏の夕	時候
5355	明治37年	夏の部	夏の夕雨に還御の神輿かな	夏の夕	時候
5356	明治37年	夏の部	百日紅鶏の疫のはやる里	百日紅	植物
5357	明治37年	夏の部	秋近き宵ありきすや陰陽師	秋近し	時候
5358	明治37年	夏の部	冷汁に廬山の雨を偲びけり	冷汁	人事
5359	明治37年	夏の部	草取や瘦田と見ゆる稲の丈	草取り	人事
5361	明治37年	夏の部	軍中の節度涼しき事ばかり	涼し	時候
5362	明治37年	夏の部	山の幸兄は照射に出てゝ行く	照射	人事
5363	明治37年	夏の部	雷落ちし官山の杉伐らせけり	雷	天文
5364	明治37年	夏の部	苔の花佛足石を冒しけり	苔の花	植物
5365	明治37年	夏の部	支那の人簞食の禮や夏柳	夏柳	植物
5366	明治37年	夏の部	夏書の間只山僧の入るを許す	夏書	人事
5367	明治37年	夏の部	將軍の磊落として一夜酒	甘酒	人事
5368	明治37年	夏の部	不二小屋の曉深き鑽火かな	富士詣	人事
5369	明治37年	夏の部	水辺やおどろ／＼と不二行人	富士垢離	人事
5370	明治37年	夏の部	富士垢離や赤星の影清らかに	富士垢離	人事
5371	明治37年	夏の部	朔日の行事かしこし富士の坊	富士詣	人事
5372	明治37年	夏の部	語りつぎ云ひつぎ富士の道者哉	富士詣	人事
5373	明治37年	夏の部	髙山を前に控へて青すだれ	青簾	人事
5374	明治37年	夏の部	小説の女に似たり青すだれ	青簾	人事
5375	明治37年	夏の部	青すだれ酒に琥珀の光あり	青簾	人事
5376	明治37年	夏の部	青簾古器を並べて樂めり	青簾	人事
5377	明治37年	夏の部	青すだれ衣桁の衣のあからさま	青簾	人事
5378	明治37年	夏の部	大勢に膾料理や青すだれ	青簾	人事
5379	明治37年	夏の部	青すだれ清女が老を覗きけり	青簾	人事
5380	明治37年	夏の部	青すだれ寂寞として古佛像	青簾	人事
5381	明治37年	夏の部	青すだれ老僧まかり出にけり	青簾	人事
5382	明治37年	夏の部	青簾松の嵐の寒き程	青簾	人事
5383	明治37年	夏の部	葉桜やよき水を射る日の光	葉櫻	植物
5384	明治37年	夏の部	一陣の風千木の幟かな	幟	人事
5385	明治37年	夏の部	草の上に招魂壇や羽蟻飛ぶ	羽蟻	動物
5386	明治37年	夏の部	衣更南枝に巣ふ鳥悲し	更衣	人事
5387	明治37年	夏の部	浮巣すゞし真菰の中の朝月夜	真菰	植物
5388	明治37年	夏の部	うはゝみの鱗を見たる照射哉	蛇	動物
5390	明治37年	夏の部	はかなさは青梅落つと見たりけり	梅の實	植物
5391	明治37年	夏の部	僧よりも髙き芭蕉の巻葉哉	芭蕉玉巻	植物
5392	明治37年	夏の部	衣更皆うつくしき皃ばかり	更衣	人事
5393	明治37年	夏の部	うつくしき皃そろへたる袷かな	袷	人事
5394	明治37年	夏の部	月の暈牡丹くづるゝ夜なりけり	牡丹	植物
5395	明治37年	夏の部	夏やすみ妹としたしむ林檎哉	夏休み	人事
5396	明治37年	夏の部	雲割れて河骨の黄にさす日かな	河骨	植物
5397	明治37年	夏の部	さらし井の不淨を神に恐れけり	井戸替え	人事
5398	明治37年	夏の部	蘭湯の浴終へて君王に侍す	蘭湯	人事
5399	明治37年	夏の部	夏の夕とぎすましたる翌日の鎌	夏の夕	時候

夏の部

No.	作句年	部	俳　　句	季語	分類
5400	明治37年	夏の部	夏の夕清女が老を過ぎりけり	夏の夕	時候
5401	明治37年	夏の部	夏の夕虹あか／＼と山にあり	夏の夕	時候
5402	明治37年	夏の部	草の香に折ふし咽ぶ鹿の子哉	鹿の子	動物
5403	明治37年	夏の部	沢蘭に下りて遊べる鹿の子哉	鹿の子	動物
5404	明治37年	夏の部	梅雨晴の芝に鹿の子の蹄かな	鹿の子	動物
5405	明治37年	夏の部	社地ひろし鹿の子に馴れて飛燕	鹿の子	動物
5406	明治37年	夏の部	神木の露に驚く鹿の子哉	鹿の子	動物
5407	明治37年	夏の部	蚊帳して帝玉山頽れけり	蚊帳	人事
5408	明治37年	夏の部	兄弟が寝静まりたる蚊帳哉	蚊帳	人事
5409	明治37年	夏の部	竹の子の皮脱く頃を赦免かな	竹の皮脱ぐ	植物
5410	明治37年	夏の部	帽を振る登山の連や青すゝき	青芒	植物
5411	明治37年	夏の部	夏瘦の猶手に釈かず青表紙	夏瘦	人事
5412	明治37年	夏の部	よく育つ南瓜の花も大也	南瓜の花	植物
5413	明治37年	夏の部	行先に誰かは知らずともしかな	照射	人事
5414	明治37年	夏の部	維レ孑子乾坤／＼とふる	孑子	動物
5415	明治37年	夏の部	朝々や青田に夏の日を拜す	青田	地理
5416	明治37年	夏の部	山の裾頓に開けて青田哉	青田	地理
5417	明治37年	夏の部	街道の埃かゝらぬ青田かな	青田	地理
5418	明治37年	夏の部	松明照す道の左右の青田哉	青田	地理
5419	明治37年	夏の部	雨上り水漫々と青田哉	青田	地理
5420	明治37年	夏の部	鍋祭筑摩の荘の美婦一人	筑摩祭	人事
5421	明治37年	夏の部	ねんごろの男一人や鍋祭	筑摩祭	人事
5422	明治37年	夏の部	卯の花や艶なる人の筑摩鍋	筑摩祭	人事
5423	明治37年	夏の部	催馬樂を謡ふ筑摩の祭人	筑摩祭	人事
5424	明治37年	夏の部	やごとなき神業にして筑摩鍋	筑摩祭	人事
5425	明治37年	夏の部	蛸たれて百合の花ほのかに白し	百合	植物
5426	明治37年	夏の部	百合さげて見知らぬ人の滝見哉	百合	植物
5427	明治37年	夏の部	等閑に百合も挿したるかほりか南	百合	植物
5428	明治37年	夏の部	百合活けて坐を立去りし美人哉	百合	植物
5429	明治37年	夏の部	百合の花美人の顔に映じけり	百合	植物
5430	明治37年	夏の部	水代へて残少なや冷瓜	冷瓜	人事
5431	明治37年	夏の部	蛛の囲のうたて覚ゆる御墓哉	蜘蛛	動物
5656	明治38年	夏の部	初茄子や世人は知らず俳体歌	茄子	植物
5657	明治38年	夏の部	妹が子は夏蚕の桑に納涼みけり	納涼	人事
5658	明治38年	夏の部	騎射の日の晨晴れたる翠微哉	騎射	人事
5659	明治38年	夏の部	弱冠にして出家す蓮の浮葉哉	蓮の浮葉	植物
5660	明治38年	夏の部	卯の花の家なる美婦を盗みけり	卯の花	植物
5661	明治38年	夏の部	夏浅き萠黄の山や湖の上	夏浅し	時候
5662	明治38年	夏の部	慵しや秋に近づく氷室守	氷室	人事
5663	明治38年	夏の部	盗人の跡に柘榴の落花哉	石榴の花	植物
5664	明治38年	夏の部	腹かけの紺の匂や心太	心太	人事
5665	明治38年	夏の部	筝に髀肉見せけり蝸牛	蝸牛	動物
5666	明治38年	夏の部	家に居て竹をうゑけり太史公	竹植る	人事
5667	明治38年	夏の部	竹うゑて猶紫陽花を存しけり	竹植る	人事
5668	明治38年	夏の部	絃誦の声を後ろや竹植うる	竹植る	人事
5669	明治38年	夏の部	蘇子が子ら退いて賦す種竹の詩	竹植る	人事
5670	明治38年	夏の部	竹うゑて二日三日や月円か	竹植る	人事
5671	明治38年	夏の部	虎渓よりかへす獨や木下闇	木下闇	植物

夏の部

No.	作句年	部	俳　　句	季語	分類
5672	明治38年	夏の部	挺ンでし朴の葉音や木下闇	木下闇	植物
5673	明治38年	夏の部	木下闇皆黄檗の法師原	木下闇	植物
5674	明治38年	夏の部	下闇や木を白うして文字を書く	木下闇	植物
5675	明治38年	夏の部	下闇や幻住菴へ二三人	木下闇	植物
5676	明治38年	夏の部	夏の月槐に深き住居かな	夏の月	天文
5677	明治38年	夏の部	雨ほしき暮となりけり韮の花	韮の花	植物
5678	明治38年	夏の部	游泳の戻りを咲きぬ月見草	月見草	植物
5679	明治38年	夏の部	朝月に浮巣の雛の眼あけゝり	浮巣	動物
5680	明治38年	夏の部	萬骨の枯れて蟷螂生れけり	蟷螂生る	動物
5681	明治38年	夏の部	潮浴びて新月かゝる頃しもや	海水浴	人事
5682	明治38年	夏の部	衣ぬいで蛇且つ所得顔かな	蛇衣を脱ぐ	動物
5683	明治38年	夏の部	水吹けば團扇もぬれつ蚊やり草	蚊遣	人事
5684	明治38年	夏の部	朝草を荷ひ渉るや夏の川	夏の川	地理
5685	明治38年	夏の部	流るゝに任す扇や河納涼	納涼	人事
5686	明治38年	夏の部	箒木の宿とこそ聞け月見草	月見草	植物
5687	明治38年	夏の部	夏衣念佛心起りけり	夏衣	人事
5688	明治38年	夏の部	蝿打て又や草廬を立去りぬ	蝿	動物
5689	明治38年	夏の部	霍乱の人に修法や泉殿	霍乱	人事
5690	明治38年	夏の部	夏瘦の朝暮に花を活けにけり	夏瘦	人事
5691	明治38年	夏の部	夏瘦の夜を親しむ獨坐かな	夏瘦	人事
5692	明治38年	夏の部	夏やせの水澄む頃に及びけり	夏瘦	人事
5693	明治38年	夏の部	夏瘦の人や文月の句を想ふ	夏瘦	人事
5694	明治38年	夏の部	夏瘦や庭の梧桐の頼もしき	夏瘦	人事
5695	明治38年	夏の部	筍や既に春蔬の氣を厭ふ	筍	植物
5696	明治38年	夏の部	牡丹見る人驚かす毛虫かな	毛蟲	動物
5697	明治38年	夏の部	白牡丹白きを穢す毛虫哉	毛蟲	動物
5698	明治38年	夏の部	洗鯉客は当世の七才子	洗鯉	人事
5699	明治38年	夏の部	山開晴れて風鳴る頭上哉	山開	人事
5700	明治38年	夏の部	葉柳の枝伐落す浅き水	夏柳	植物
5701	明治38年	夏の部	病葉や銀杏に高き卯月の日	病葉	植物
5702	明治38年	夏の部	薫風や處せきまで金魚盤	薫風	天文
5703	明治38年	夏の部	萬木の皆日に向ふ若葉哉	若葉	植物
5704	明治38年	夏の部	五月雨に押流さるゝあやめ哉	あやめ	植物
5705	明治38年	夏の部	五月晴大河を照す斜陽かな	五月晴	天文
5706	明治38年	夏の部	木隠れに大佛近く鹿の子哉	鹿の子	動物
5707	明治38年	夏の部	折ふしの肱笠雨や田植人	田植	人事
5708	明治38年	夏の部	喝采や花踏みちらすくらべ馬	競馬	人事
5709	明治38年	夏の部	昔男女ありけり鍋祭	筑摩祭	人事
5710	明治38年	夏の部	蓴採り舟を停めて語りけり	蓴菜	植物
5711	明治38年	夏の部	貧しくて青唐辛子潔し	青唐辛子	植物
5712	明治38年	夏の部	沙弥が来て青唐辛子貰ひけり	青唐辛子	植物
5713	明治38年	夏の部	花茨五月の晴と成にけり	茨の花	植物
5714	明治38年	夏の部	軾や轍や竹うゝる記を作りけり	竹植る	人事
5716	明治38年	夏の部	君に贈るつるぎに清水そゝぎけり	清水	地理
5717	明治38年	夏の部	川狩や夜はほの〻と君が顔	川狩	人事
5718	明治38年	夏の部	麦秋の狼煙頻りにあがりけり	麦の秋	時候
5719	明治38年	夏の部	夕立のしぶきかしこし宮柱	夕立	天文
5720	明治38年	夏の部	雨やどり椎ばかりなる凉しさよ	凉し	時候

夏の部

No.	作句年	部	俳　　句	季語	分類
5721	明治38年	夏の部	獨居の芭蕉に黙す麦こがし	麦焦し	人事
5722	明治38年	夏の部	雷に賢聖障子震ひけり	雷	天文
5723	明治38年	夏の部	青々と朝露垂るゝ胡瓜哉	瓜	植物
5724	明治38年	夏の部	夏山や敵の輜重のあり所	夏山	地理
5725	明治38年	夏の部	夏山や一あめすぐる宇治の町	夏山	地理
5726	明治38年	夏の部	夕立に芭蕉忽ちほぐれけり	夕立	天文
5727	明治38年	夏の部	温泉の宿がくれし金魚かな	金魚	動物
5728	明治38年	夏の部	三文の茄子五文の瓜も涼し	雑	雑
6045	明治39年	夏の部	その鳴くや佶屈として蟇	蟇	動物
6046	明治39年	夏の部	千載に一たび舞はむ蟇	蟇	動物
6047	明治39年	夏の部	藜伐て貧しき中に盟ひけり	藜	植物
6048	明治39年	夏の部	粽結ふ女の心忖りけり	粽	人事
6049	明治39年	夏の部	青眼のあるじや梅の実をかぢる	梅の實	植物
6050	明治39年	夏の部	蟇を獲て筆を絶ちけり奇人僧	蟇	動物
6051	明治39年	夏の部	舊跡や畑とならば紅の花	紅花	植物
6052	明治39年	夏の部	二頃の田青鷺も居て我富めり	青鷺	動物
6053	明治39年	夏の部	百貫の銭を荷へり夏木立	夏木立	植物
6054	明治39年	夏の部	衣更て人を遠きに懐ひけり	更衣	人事
6055	明治39年	夏の部	時鳥啼く頃の花さへ悲し	時鳥	動物
6056	明治39年	夏の部	清新の句を酬ひけり鮓の客	鮓	人事
6057	明治39年	夏の部	鮓なれて故人再び過りけり	鮓	人事
6058	明治39年	夏の部	我を以て貧しとなさず鮎の鮓	鮓	人事
6059	明治39年	夏の部	鮎の鮓少かに足らず朋の來る	鮓	人事
6060	明治39年	夏の部	今來んとばかりになれつ一夜すし	鮓	人事
6061	明治39年	夏の部	野の宮は蟲さへ飛はず青簾	青簾	人事
6062	明治39年	夏の部	青簾偶々過ぐる白頭翁	青簾	人事
6063	明治39年	夏の部	黄昏の月逗るや青すたれ	青簾	人事
6064	明治39年	夏の部	青簾夏行の心定まりぬ	青簾	人事
6065	明治39年	夏の部	青簾花を隔てゝ賣花翁	青簾	人事
6066	明治39年	夏の部	子を持たぬ鵜飼か妻の化粧哉	鵜飼	人事
6068	明治39年	夏の部	鵜を縦つ事壮佼を凌ぎけり	鵜	動物
6069	明治39年	夏の部	六國の相印我に鵜縄かな	鵜	動物
6070	明治39年	夏の部	年々の鵜同じからず鵜川哉	鵜	動物
6071	明治39年	夏の部	花むしろ織りちらしたる晝寐哉	晝寢	人事
6072	明治39年	夏の部	うきくさに水まさりけり朝の程	萍	植物
6073	明治39年	夏の部	うき草の花吹く風に吹かれけり	萍	植物
6074	明治39年	夏の部	うき草の花に盛をわびにけり	萍	植物
6075	明治39年	夏の部	うき草の花に負きて小魚見ゆ	萍	植物
6076	明治39年	夏の部	うき草に早しのゝめの花白し	萍	植物
6077	明治39年	夏の部	商人の衣を汚しぬ沖膾	沖膾	人事
6078	明治39年	夏の部	沖鱠一ト日脂粉を遠ざくる	沖膾	人事
6079	明治39年	夏の部	丈草は詩を作りけり沖鱠	沖膾	人事
6080	明治39年	夏の部	酒壷の古きに対す沖鱠	沖膾	人事
6081	明治39年	夏の部	逸興や俄かに作る沖鱠	沖膾	人事
6082	明治39年	夏の部	鯉幟庭樹の露を拂ひけり	鯉幟	人事
6083	明治39年	夏の部	青梅に興や一家の詩を作る	梅の實	植物
6084	明治39年	夏の部	けし散るを惜む主人やはたゝ神	雷	天文
6085	明治39年	夏の部	矢叫に脅かされし夏野哉	夏野	地理

夏の部

No.	作句年	部	俳　　句	季語	分類
6086	明治39年	夏の部	蝶一つ遠く吹かれし夏野哉	夏野	地理
6087	明治39年	夏の部	慇懃にすや梅干の壷一つ	梅干す	人事
6088	明治39年	夏の部	衣ぬいで此野を蛇の行方哉	蛇衣を脱ぐ	動物
6089	明治39年	夏の部	口辯のいやしげならず夏羽織	夏羽織	人事
6091	明治39年	夏の部	撫子やこゝに人待つ松林	撫子	植物
6092	明治39年	夏の部	撫子や土手の窪みの草の中	撫子	植物
6093	明治39年	夏の部	撫子に水を求めてありきけり	撫子	植物
6094	明治39年	夏の部	撫子に薮の茂りや毒うつぎ	撫子	植物
6095	明治39年	夏の部	撫子に砂はねかへす轍かな	撫子	植物
6096	明治39年	夏の部	撫子の淡々しさや宵の星	撫子	植物
6097	明治39年	夏の部	草臥や鼻の先なる野撫子	撫子	植物
6098	明治39年	夏の部	堀切の新道涼し野撫子	撫子	植物
6099	明治39年	夏の部	汐風を遮って松に野撫子	撫子	植物
6100	明治39年	夏の部	水辺の夕撫子や露早し	撫子	植物
6102	明治39年	夏の部	蝉凉し門に車を入れしめず	蝉	動物
6103	明治39年	夏の部	車下りて蝉なく方へ寺凉し	蝉	動物
6104	明治39年	夏の部	案内の坊主に蝉のいばり哉	蝉	動物
6105	明治39年	夏の部	物干して庫裡に人なし蝉時雨	蝉	動物
6106	明治39年	夏の部	梅干はすいぞ／＼と蝉の声	蝉	動物
6107	明治39年	夏の部	蝉木立出あるく僧に拶着す	蝉	動物
6108	明治39年	夏の部	墓守の蹲まる背や蝉凉し	蝉	動物
6109	明治39年	夏の部	傳法の松や飛つく蝉唖なり	蝉	動物
6110	明治39年	夏の部	かしましき蝉ふかれ落つ青田哉	蝉	動物
6111	明治39年	夏の部	象潟は埋れて蝉の声あつし	蝉	動物
6113	明治39年	夏の部	逢戀を柳の妬水馬	水馬	動物
6114	明治39年	夏の部	蛇苺草にかくるゝ朽木かな	蛇苺	植物
6115	明治39年	夏の部	白鹿の其子は人に射られけり	鹿の子	動物
6116	明治39年	夏の部	昼眠る鹿の子に銀杏若葉	鹿の子	動物
6117	明治39年	夏の部	長明が家は若葉にかくれけり	若葉	植物
6118	明治39年	夏の部	草清水藥の紙を飛ばしけり	清水	地理
6119	明治39年	夏の部	人わるく顔を見せじと日仐哉	日傘	人事
6120	明治39年	夏の部	短夜の人に後れし渡シかな	短夜	時候
6121	明治39年	夏の部	牡丹活けて菴の古きに篭りけり	牡丹	植物
6122	明治39年	夏の部	雲の峰旅行く君が笠の上	雲の峰	天文
6123	明治39年	夏の部	渺々の水を吹き来る田植歌	田植	人事
6124	明治39年	夏の部	夏の曉の夕の霞や幟竿	幟	人事
6125	明治39年	夏の部	姉妹の餉を分つ田植哉	田植	人事
6126	明治39年	夏の部	青丹よし奈良を出れば雲の峰	雲の峰	天文
6127	明治39年	夏の部	客一人牡丹をして俗ならしめず	牡丹	植物
6128	明治39年	夏の部	身を修め家を齊へ昼寐哉	晝寢	人事
6129	明治39年	夏の部	山苣萵の花に出そめし薮蚊かな	蚊	動物
6130	明治39年	夏の部	橘の香をなつかしみ鳴蚊かな	蚊	動物
6131	明治39年	夏の部	昼の蚊の窺ひよるや讀書人	蚊	動物
6132	明治39年	夏の部	一穂の灯ざしや遠く蚊鳴去る	蚊	動物
6133	明治39年	夏の部	夜な／＼の五車の反古に鳴蚊哉	蚊	動物
6134	明治39年	夏の部	鮓の石其頑ナを守りけり	鮓	人事
6135	明治39年	夏の部	栁の花愚かなる子を遊ばしむ	栁の花	植物
6136	明治39年	夏の部	栁の花よべの狸を打ちし跡	栁の花	植物

夏の部

No.	作句年	部	俳　　句	季語	分類
6137	明治39年	夏の部	柹の花掃きも棄つべき流あり	柹の花	植物
6138	明治39年	夏の部	衣濯ぐ智月が宿や柿の花	柹の花	植物
6139	明治39年	夏の部	蚊帳貰うて去来戻りぬ柿の花	柹の花	植物
6140	明治39年	夏の部	運ぶべき甕に夕日や柿の花	柹の花	植物
6141	明治39年	夏の部	加茂を出て日にあたりたる葵哉	葵	植物
6142	明治39年	夏の部	加茂の子が戯れかざす葵かな	葵	植物
6143	明治39年	夏の部	葵かけて糺の水に鑑みぬ	葵	植物
6144	明治39年	夏の部	枯葵清少納言老いにけり	葵	植物
6145	明治39年	夏の部	葵かざす蒼生や神の國	葵	植物
6146	明治39年	夏の部	氷室守老いて帝の御幸哉	氷室	人事
6147	明治39年	夏の部	氷室見て氷の髄を思ひけり	氷室	人事
6148	明治39年	夏の部	養老の滝の上なる氷室哉	氷室	人事
6149	明治39年	夏の部	氷室開く吉き日の旭上りけり	氷室	人事
6150	明治39年	夏の部	百合の花活々として氷室山	氷室	人事
6151	明治39年	夏の部	水鶏啼くや郷先生の碑のあたり	水鶏	動物
6152	明治39年	夏の部	鵜を縦つ人壯ン也鬢の霜	鵜	動物
6153	明治39年	夏の部	綿打によき娘あり棉の花	棉の花	植物
6154	明治39年	夏の部	白蓮の咲きしが特に骨立ちぬ	蓮	植物
6155	明治39年	夏の部	一村や麻より低き家ばかり	麻	植物
6156	明治39年	夏の部	雲水と挨拶しけり麻頭巾	麻頭巾	人事
6157	明治39年	夏の部	一宿して立去る君や麻頭巾	麻頭巾	人事
6158	明治39年	夏の部	麻頭巾白眼に人通りけり	麻頭巾	人事
6159	明治39年	夏の部	高山の嵐や夏の蝶あがる	夏の蝶	動物
6160	明治39年	夏の部	夕顔に人まだ早し辻説法	夕顔	植物
6161	明治39年	夏の部	合歓咲くや日はあか／＼と西の海	合歓の花	植物
6162	明治39年	夏の部	雨乞の人むら／＼と登山哉	雨乞	人事
6163	明治39年	夏の部	一盆の水くつがへす簟	簟	人事
6164	明治39年	夏の部	寺深く微涼を慕ひ至りけり	涼し	時候
6165	明治39年	夏の部	夏菊にまゆ商人をもてなしぬ	夏菊	植物
6166	明治39年	夏の部	朝露や晒し遺れし晒菅	菅刈	人事
6167	明治39年	夏の部	露おくや踏まれずにある晒菅	菅刈	人事
6168	明治39年	夏の部	葭簀して藍扱く女白かりし	藍扱く	人事
6169	明治39年	夏の部	野の村や麻より低き家ばかり	麻	植物
6171	明治39年	夏の部	昼顔のからまるものも無かりけり	晝顔	植物
6173	明治39年	夏の部	臑の蚊を打つたびに我句は成りぬ	蚊	動物
6174	明治39年	夏の部	南瓜咲いて民の慍りの解けにけり	南瓜の花	植物
6175	明治39年	夏の部	南瓜作る南瓜の花が咲きにけり	南瓜の花	植物
6176	明治39年	夏の部	万巻の書を讀破しぬ心太	心太	人事
6177	明治39年	夏の部	蟇鳴くや家に焚餘の書を藏む	蟇	動物
6178	明治39年	夏の部	書庫を出る洒掃の子や今年竹	若竹	植物
6179	明治39年	夏の部	蒭蕘の輩ラ涼し書を讀む	涼し	時候
6180	明治39年	夏の部	白蓮や一日外典に目をさらす	蓮	植物
6181	明治39年	夏の部	五車の蠹魚と我老にけり簟	簟	人事
6182	明治39年	夏の部	江山を藏めて涼し書庫の中	涼し	時候
6478	明治40年	夏の部	花に負き句を鬪はす牡丹かな	牡丹	植物
6479	明治40年	夏の部	目に残る扇流や河鹿鳴く	河鹿	動物
6480	明治40年	夏の部	夏山に居て材木の荒削り	夏山	地理
6481	明治40年	夏の部	先生の爲に蚊火焚く夜学哉	蚊遣	人事

夏の部

No.	作句年	部	俳　　句	季語	分類
6482	明治40年	夏の部	蚊やり草薫と蕕とを分ちけり	蚊遣	人事
6483	明治40年	夏の部	篭り人少れに來る蚊に起きてあり	蚊	動物
6484	明治40年	夏の部	湯上りや妻が刈来る蚊やり草	蚊遣	人事
6485	明治40年	夏の部	一片の心蚊をやく故人かな	蚊遣	人事
6486	明治40年	夏の部	白頭の今に苦吟や蚊を悪む	蚊	動物
6487	明治40年	夏の部	今朝とりし菊の葉の虫や雹がふる	雹	天文
6488	明治40年	夏の部	百合を折る一時の興や峠越え	百合	植物
6489	明治40年	夏の部	たが家の墓所や大きな百合の花	百合	植物
6490	明治40年	夏の部	百合活けて山野の氣味を覚えけり	百合	植物
6491	明治40年	夏の部	夏の日を恐るゝ人や百合の花	百合	植物
6492	明治40年	夏の部	蕗の谷行く／＼百合の山路哉	百合	植物
6493	明治40年	夏の部	風に偃す草と異り百合の花	百合	植物
6494	明治40年	夏の部	野百合咲いて軍兵の目を涼しくす	百合	植物
6495	明治40年	夏の部	山裾の岬の幟吹かれけり	幟	人事
6496	明治40年	夏の部	夏山や雛といふ馬牽来る	夏山	地理
6497	明治40年	夏の部	短夜の事かきそへつ文のはし	短夜	時候
6498	明治40年	夏の部	述懐の洒々落々と明易き	短夜	時候
6499	明治40年	夏の部	地氣動くところ果して清水かな	清水	地理
6500	明治40年	夏の部	劍客と袂を分つ清水かな	清水	地理
6501	明治40年	夏の部	夜出でしけものゝ跡や草しみず	清水	地理
6502	明治40年	夏の部	商人の銭鳴らしけり岩清水	清水	地理
6503	明治40年	夏の部	人絶えて溢るゝばかり清水哉	清水	地理
6504	明治40年	夏の部	滴りの金石にしむ清水かな	清水	地理
6505	明治40年	夏の部	清水湧く一路当帰の茂かな	清水	地理
6506	明治40年	夏の部	日光の草に洽き清水哉	清水	地理
6507	明治40年	夏の部	村の子の草くゞり行く清水哉	清水	地理
6508	明治40年	夏の部	村塾の罰則清水汲ましめぬ	清水	地理
6509	明治40年	夏の部	あけやすく既に幟の二三本	幟	人事
6510	明治40年	夏の部	牡丹さげて競馬の泥を避けにけり	牡丹	植物
6512	明治40年	夏の部	行々子も鳴かず豊葦原の國	行々子	動物
6513	明治40年	夏の部	海濶の二字を題しぬ沖膾	沖膾	人事
6514	明治40年	夏の部	賓客の到りまもなく夕立哉	夕立	天文
6515	明治40年	夏の部	蓬生やかゝる小家に金魚玉	金魚玉	人事
6516	明治40年	夏の部	象潟の鶴は返らぬ青田哉	青田	地理
6517	明治40年	夏の部	松葉ちる一々法の韻きかな	松落葉	植物
6518	明治40年	夏の部	經藏を風に開くや松落葉	松落葉	植物
6519	明治40年	夏の部	萍や木深く見えて城戸の趾	萍	植物
6520	明治40年	夏の部	萍に生れしと見る虫のとぶ	萍	植物
6521	明治40年	夏の部	萍や鐘は水樹に隠見す	萍	植物
6522	明治40年	夏の部	浮草や蝉鳴く森を水の上	萍	植物
6523	明治40年	夏の部	浮草に新たに蓮の巻葉哉	萍	植物
6524	明治40年	夏の部	萍に立よりてやゝ吹かれけり	萍	植物
6525	明治40年	夏の部	萍に蚊火の烟の消にけり	萍	植物
6526	明治40年	夏の部	萍も土用の花と咲にけり	萍	植物
6527	明治40年	夏の部	萍のはびこるまゝや水平	萍	植物
6528	明治40年	夏の部	虫干の室に隣りて謡かな	蟲干	人事
6529	明治40年	夏の部	虫干や天地に留む一詩巻	蟲干	人事
6530	明治40年	夏の部	蒭蕘の何にさゝやく曝書哉	蟲干	人事

夏の部

No.	作句年	部	俳　　句	季語	分類
6531	明治40年	夏の部	書をさらし終る松風蘿月哉	蟲干	人事
6532	明治40年	夏の部	蝉鳴くと行く道の辺の泉哉	蝉	動物
6533	明治40年	夏の部	蝉すゞし山に不断の法の声	蝉	動物
6534	明治40年	夏の部	清淨の身を蝉のなく下山哉	蝉	動物
6535	明治40年	夏の部	涼しげに蝉聴ゝおはすとも見えず	蝉	動物
6536	明治40年	夏の部	山深きかしこさよ蝉鳴くさへも	蝉	動物
6537	明治40年	夏の部	此山の巨人の跡や雨祈る	雨乞	人事
6538	明治40年	夏の部	雨乞の地をトす崖の青すゝき	雨乞	人事
6539	明治40年	夏の部	雨祈るこの大木を力かな	雨乞	人事
6540	明治40年	夏の部	雨乞の人狼籍す百合の花	雨乞	人事
6541	明治40年	夏の部	人泊めし蚊帳の釣手も名残哉	蚊帳	人事
6542	明治40年	夏の部	白扇に夏菊そへて使かな	夏菊	植物
6543	明治40年	夏の部	夏菊を乞へば主人の吝さかに	夏菊	植物
6544	明治40年	夏の部	夏菊にそゝぐべき水一荷哉	夏菊	植物
6545	明治40年	夏の部	夏菊にまじり剪られつ雑の草	夏菊	植物
6546	明治40年	夏の部	夏菊に人旱魃の立咄	夏菊	植物
6547	明治40年	夏の部	うろくつの耳すますらん御祓川	御祓	人事
6548	明治40年	夏の部	七種のみそきの供物星涼し	御祓	人事
6549	明治40年	夏の部	水ナ上の蒼々の樹や御祓川	御祓	人事
6550	明治40年	夏の部	御祓人通ふ草原小石原	御祓	人事
6551	明治40年	夏の部	神の御衣想ふみそぎの水の色	御祓	人事
6552	明治40年	夏の部	御祓川尊きものに瀬を早み	御祓	人事
6553	明治40年	夏の部	御祓川岸辺に長き青すゝき	御祓	人事
6554	明治40年	夏の部	波さわぐ物の恐れや御祓川	御祓	人事
6555	明治40年	夏の部	御祓川雲吹落す嵐山	御祓	人事
6556	明治40年	夏の部	夕祓水ひた／＼と岸辺かな	御祓	人事
6557	明治40年	夏の部	清水近く飯白き宿と記しけり	清水	地理
6558	明治40年	夏の部	猿酒に明易き夜や君が醉	短夜	時候
6559	明治40年	夏の部	朴すゞし君が行李のおきどころ	涼し	時候
6560	明治40年	夏の部	冷酒の醉を忘るな山膾	冷酒	人事
6561	明治40年	夏の部	夏菊の貧を侮りぬ仇し草	夏菊	植物
6562	明治40年	夏の部	百合の香に驚いて相別れけり	百合	植物
6563	明治40年	夏の部	糠漬の浴き別れや瓜茄子	雑	雑
6564	明治40年	夏の部	語合ふ明日の別を灯取虫	灯取蟲	動物
6565	明治40年	夏の部	灯取虫の魂君が草枕	灯取蟲	動物
6566	明治40年	夏の部	夕顔に早く蛸つる病かな	夕顔	植物
6567	明治40年	夏の部	鑛毒に遠く夕顔咲にけり	夕顔	植物
6568	明治40年	夏の部	夕皃やいつこ神鳴る宵の癖	夕顔	植物
6569	明治40年	夏の部	相似たり夕皃棚のありどころ	夕顔	植物
6570	明治40年	夏の部	夕皃を見つ刈にゆく蚊やり草	夕顔	植物
6571	明治40年	夏の部	納涼する塩噌の外の一間哉	納涼	人事
6573	明治40年	夏の部	夏菊の家一つ舟果にけり	夏菊	植物
6574	明治40年	夏の部	今日の瀬の鮎居ずなりし故郷哉	鮎	動物
6575	明治40年	夏の部	吾を知る人や乏しき鮎くれし	鮎	動物
6576	明治40年	夏の部	鮎くるゝ人に鄙吝の心なし	鮎	動物
6577	明治40年	夏の部	見下ろすや鮎つる人に岩高き	鮎	動物
6578	明治40年	夏の部	山に居る官人に鮎乞はれけり	鮎	動物
6579	明治40年	夏の部	鮎を釣る朝のいとまや川近き	鮎	動物

夏の部

No.	作句年	部	俳　　句	季語	分類
6580	明治40年	夏の部	山門の金剛玉や麦埃り	麦打ち	人事
6840	明治41年	夏の部	編笠に月照るばかり夜道かな	編笠	人事
6841	明治41年	夏の部	花苗のあだに伸びたり田植過	田植	人事
6842	明治41年	夏の部	心太すすって自問自答かな	心太	人事
6843	明治41年	夏の部	わが家の藏書乏しうして涼し	涼し	時候
6844	明治41年	夏の部	喬木の生立ち涼し沢一つ	涼し	時候
6845	明治41年	夏の部	風蓮雨蓮此意を以て詩を品す	蓮	植物
6846	明治41年	夏の部	山郭やこの一筋の御祓川	御祓	人事
6847	明治41年	夏の部	繭屑のえり屑も満つ古麻小笥	繭	人事
6848	明治41年	夏の部	硯賣重荷卸すやまゆむしろ	繭	人事
6849	明治41年	夏の部	詩の意公主に媚ぶや闘草	闘草	人事
6850	明治41年	夏の部	雨雲の千里百里や闘草	闘草	人事
6851	明治41年	夏の部	齷齪と世に處る人や蚤一つ	蚤	動物
6852	明治41年	夏の部	たちぎわの朝雷や蚤の宿	蚤	動物
6853	明治41年	夏の部	洪水を見に早起や蚤の宿	蚤	動物
6854	明治41年	夏の部	目ふさげばきのふの花やのみの宿	蚤	動物
6855	明治41年	夏の部	佗人の先づ知る蚤や花うつぎ	蚤	動物
6856	明治41年	夏の部	夏の雨浴びて尚釣るけしきかな	夏の雨	天文
6857	明治41年	夏の部	聞知らぬ農話の興や夏の雨	夏の雨	天文
6858	明治41年	夏の部	一炉けぶる幻住庵や夏の雨	夏の雨	天文
6859	明治41年	夏の部	夏の雨牧畜の構大なり	夏の雨	天文
6860	明治41年	夏の部	けしの如く敦盛死して夏の雨	夏の雨	天文
6861	明治41年	夏の部	野辺送三百人や草茂る	草茂る	植物
6862	明治41年	夏の部	茂りゆく山辺薄命佳人すむ	茂り	植物
6864	明治41年	夏の部	一草の茂れるも一伽藍かな	草茂る	植物
6865	明治41年	夏の部	羅や花活けて妻の主ぶる	羅	人事
6866	明治41年	夏の部	さをとめの早起の戸や水鶏啼く	早乙女	人事
6867	明治41年	夏の部	新妻の顔の黒子や鮓を押す	鮓	人事
6868	明治41年	夏の部	隣人の何に竹割る明易き	短夜	時候
6869	明治41年	夏の部	鮎つるとこそ見ゆれ肩聳かす	鮎	動物
6870	明治41年	夏の部	老鶯や行李が届く假の宿	老鶯	動物
6871	明治41年	夏の部	竹植ゑて小酌常と異ならず	竹植る	人事
6872	明治41年	夏の部	なべて家は桜青葉や竹植うる	竹植る	人事
6873	明治41年	夏の部	桃の実は兒孫の汁や竹植うる	竹植る	人事
6874	明治41年	夏の部	半日小集竹植しつかれあり	竹植る	人事
6875	明治41年	夏の部	来べき人来ずと文あり竹うゝる	竹植る	人事
6876	明治41年	夏の部	大なる泉を控え酒煮哉	煮酒	人事
6877	明治41年	夏の部	蕗茂る里見に来れば酒煮哉	煮酒	人事
6878	明治41年	夏の部	花にそゝぐ夕や酒煮の家あるじ	煮酒	人事
6879	明治41年	夏の部	椎一木酒煮の僕こぞりけり	煮酒	人事
6880	明治41年	夏の部	酒煮祝ふお僧尊くおはしけり	煮酒	人事
6881	明治41年	夏の部	斯道の絶えずも芭蕉玉をまく	芭蕉玉卷	植物
6882	明治41年	夏の部	夏篭や翊々として虫のとぶ	夏籠	人事
6883	明治41年	夏の部	蛾と化して白き翅や虎が雨	蛾	動物
6884	明治41年	夏の部	蚊柱や馬賣惜む頑に	蚊	動物
6885	明治41年	夏の部	閨と云へど女も棲まず栁の花	栁の花	植物
6886	明治41年	夏の部	鍛冶もすむ山手の茂文庫見ゆ	茂り	植物
6887	明治41年	夏の部	三ヶ条書庫の掟や蝉すゞし	蝉	動物

夏の部

No.	作句年	部	俳　　句	季語	分類
6888	明治41年	夏の部	編みさしの図書目録や梅黄ばむ	梅の實	植物
6889	明治41年	夏の部	日上るや降らぬにきまる旱雲	旱	天文
6890	明治41年	夏の部	水をせく石動かすや旱村	旱	天文
6891	明治41年	夏の部	神事佛事なき一郷の旱哉	旱	天文
6892	明治41年	夏の部	養魚地に鳥捕る鶚も旱哉	旱	天文
6893	明治41年	夏の部	水源地鬱蒼として旱かな	旱	天文
6894	明治41年	夏の部	紙魚出る頃に終りぬ嵯峨日記	紙魚	動物
6895	明治41年	夏の部	打ち／＼し紙魚弔ふや秋隣	紙魚	動物
6896	明治41年	夏の部	愁へては行李のしみをはたきけり	紙魚	動物
6897	明治41年	夏の部	夏篭や肱を曲ぐれば紙魚ひそむ	紙魚	動物
6898	明治41年	夏の部	掃へどもしみ出る事よ諸子百家	紙魚	動物
6899	明治41年	夏の部	はた／＼としみ打つ祖父や晝寐時	紙魚	動物
6900	明治41年	夏の部	硯石の産地の論や百合の花	百合	植物
6901	明治41年	夏の部	打水や虫は書灯の方へ飛ぶ	打水	人事
6902	明治41年	夏の部	打水や怪鳥も来鳴く庭木にて	打水	人事
6903	明治41年	夏の部	小半日習字打水したりけり	打水	人事
6904	明治41年	夏の部	打水の折から一騎通りけり	打水	人事
6905	明治41年	夏の部	打水に猫の子走る庭浅し	打水	人事
6906	明治41年	夏の部	地拓けバ先づ馬鈴薯や夏野原	夏野	地理
6907	明治41年	夏の部	夏野路や沼沿ひときけど沼も見えず	夏野	地理
6908	明治41年	夏の部	放牧の馬に濁れり夏野川	夏野	地理
6909	明治41年	夏の部	蹄跡中窪路の夏野哉	夏野	地理
6910	明治41年	夏の部	松ありて祖師に似し憩ふ夏野かな	夏野	地理
6911	明治41年	夏の部	景にふれて帰山の念や舟遊	舟遊	人事
6912	明治41年	夏の部	桑の実や心に会して古詩をよむ	桑の實	植物
6913	明治41年	夏の部	山荒の話はたごに虹近し	虹	天文
6914	明治41年	夏の部	渡守の後ろ曠野や虹の空	虹	天文
6915	明治41年	夏の部	藻がくれに子鴨うきけり虹明り	虹	天文
6916	明治41年	夏の部	虹うつる山裾道の日仆かな	虹	天文
6917	明治41年	夏の部	層々の山迢々の水虹あかり	虹	天文
7108	明治42年	夏の部	筍に花漬の約償ひぬ	筍	植物
7109	明治42年	夏の部	反古清書筍の皮棄にけり	筍	植物
7110	明治42年	夏の部	提婆品筍の皮剥き落す	筍	植物
7111	明治42年	夏の部	木曽路より音信到る袷かな	袷	人事
7112	明治42年	夏の部	大杯をあぐと誇張の幟かな	幟	人事
7113	明治42年	夏の部	木立出れば馬に鞭つ幟かな	幟	人事
7114	明治42年	夏の部	水攻の河も空しき幟かな	幟	人事
7115	明治42年	夏の部	朴の葉に糧裹む慣ひ幟哉	幟	人事
7116	明治42年	夏の部	家の吉事栽うる門木や幟立つ	幟	人事
7118	明治42年	夏の部	一景に一神守護や雲の峰	雲の峰	天文
7120	明治42年	夏の部	游艸にとゞむ歌曲や夏柳	夏柳	植物
7122	明治42年	夏の部	此水も此樹も石も風かほる	薫風	天文
7123	明治42年	夏の部	熊笹の刈場を谷のさみだるゝ	五月雨	天文
7124	明治42年	夏の部	五月雨や一物の香炉賣惜む	五月雨	天文
7125	明治42年	夏の部	鷺を射る的なす森や五月雨	五月雨	天文
7126	明治42年	夏の部	女沼男沼通路知らずさみだるゝ	五月雨	天文
7127	明治42年	夏の部	生き死ぬる毛虫羽虫や五月雨	五月雨	天文
7128	明治42年	夏の部	毒草にふれし歎や雨祈る	雨乞	人事

夏の部

No.	作句年	部	俳　　句	季語	分類
7129	明治42年	夏の部	神業の雨ふれば峯渡る鹿	雨乞	人事
7130	明治42年	夏の部	請雨法夕に開く花の前	雨乞	人事
7131	明治42年	夏の部	遠雷や筆端に墨みちぬれバ	雷	天文
7132	明治42年	夏の部	河中の根木を漁人の納涼哉	納涼	人事
7133	明治42年	夏の部	夏の山雷落つるけはひ哉	夏山	地理
7134	明治42年	夏の部	百姓の手負いたはる瓜の畑	瓜	植物
7243	明治43年	夏の部	諸木輪講一石黙す夏行かな	安居	人事
7244	明治43年	夏の部	結夏の偈朝に夕に朱を点ず	安居	人事
7245	明治43年	夏の部	一字酬う到来の筆や安居寺	安居	人事
7246	明治43年	夏の部	角なきが如牙なきが如一夏の字	安居	人事
7247	明治43年	夏の部	妄執の焔夏經の頭上かな	安居	人事
7248	明治43年	夏の部	酒をたつ一夏堅固や雲の峰	安居	人事
7249	明治43年	夏の部	つみすつる夏花汲みすつる泉哉	夏花	人事
7251	明治43年	夏の部	夏木描く傍鬼の話哉	夏	時候
7252	明治43年	夏の部	一宿に足る交や露涼し	夏の露	天文
7253	明治43年	夏の部	草木の名を知る誇り蚊火あるじ	蚊遣	人事
7254	明治43年	夏の部	客頻りに山容を賞す蚊やり時	蚊遣	人事
7255	明治43年	夏の部	里蚊やり頃になれバ山おろし吹く	蚊遣	人事
7256	明治43年	夏の部	君にけぶる蚊火よと妻のあふきけり	蚊遣	人事
7257	明治43年	夏の部	蚊火に加ふ金泥の反古二三片	蚊遣	人事
7337	明治44年	夏の部	遠まはりして水細に綿の花	棉の花	植物
7338	明治44年	夏の部	馬好きの暮鶏好きの旦綿の花	棉の花	植物
7340	明治44年	夏の部	薫風や蕗の主人にさそはれて	薫風	天文
7341	明治44年	夏の部	水打て鯉の大きさ語りけり	打水	人事
7343	明治44年	夏の部	帰路一字改竄思ふ山清水	清水	地理
7344	明治44年	夏の部	初祖遠忌藪の清水に蹊あり	清水	地理
7345	明治44年	夏の部	杣清水娘の色を白うせり	清水	地理
7346	明治44年	夏の部	轡鳴らして人警むる清水哉	清水	地理
7347	明治44年	夏の部	紙魚の如き君と相見る清水哉	清水	地理
7349	明治44年	夏の部	幽明相隔つ話柄や苔清水	清水	地理
7351	明治44年	夏の部	説法ハ瓜の鴉に利くまいぞ	瓜	植物
7430	明治45年	夏の部	此樹あればぞ此里のある夏の月	夏の月	天文
7432	明治45年	夏の部	砧女も其父母もありぬべし	砧	人事
7434	明治45年	夏の部	割前を出さざなるまい心太	心太	人事
7436	明治45年	夏の部	水飯をま白しと見る目に涙	水飯	人事
7438	明治45年	夏の部	潭心の寒きより寒し梅の花	梅	植物
7440	明治45年	夏の部	春服やつゝじに匂ふ人の顔	春服	人事
7442	明治45年	夏の部	藥舐る禽にかあらん木下闇	木下闇	植物
7444	明治45年	夏の部	流泉を饒舌と做す簟	簟	人事
7446	明治45年	夏の部	蝉涼し來往に石をふむ流レ	涼し	時候
7448	明治45年	夏の部	遠雷や突兀として起句雄に	雷	天文
7450	明治45年	夏の部	木犀や晨に淡き詩人の灯	木犀	植物
7452	明治45年	夏の部	木がくれて童子も立てり夕紅葉	紅葉	植物
7454	明治45年	夏の部	老松の雪振落し／＼	雪	天文
7456	明治45年	夏の部	露の珠を吸尽しけむ螢飛ぶ	螢	動物
7458	明治45年	夏の部	双飛鳥一莖葦よだち寂しうす	夜立ち	天文
7459	明治45年	夏の部	峽を下る箭の舟やよだち雲裂けて	夜立ち	天文
7460	明治45年	夏の部	旱鬼の角碎けよと夕立かな	夕立	天文

夏の部

No.	作句年	部	俳　　句	季語	分類
7461	明治45年	夏の部	誰が斧に祟りて深山夕立哉	夕立	天文
7462	明治45年	夏の部	夕立の狼籍たりや里神樂	夕立	天文
7463	明治45年	夏の部	羽うつ鳥の怪異やよだちの水烟	夜立ち	天文
7465	明治45年	夏の部	霹靂として神去りましぬ夏の雲	夏の雲	天文
7467	明治45年	夏の部	早稲の香に天機洩し聞ゆ畏さよ	稻	植物
7469	明治45年	夏の部	九二六五相臨む吉今朝の秋	今朝の秋	時候
7471	明治45年	夏の部	蚊火細う猶寐ねずあり小百姓	蚊遣	人事
7472	明治45年	夏の部	虫掃ふこと丁寧や零墨も	蟲干	人事
7473	明治45年	夏の部	兀ねんと居れバ灯取虫一度す	灯取蟲	動物
7474	明治45年	夏の部	時を違へず蜩の啼きいづる	蜩	動物
7475	明治45年	夏の部	秋近き何に指ざす漁者樵者	秋近し	時候
7477	明治45年	夏の部	材木に啼きついて蟬の尚あつし	蟬	動物
7479	明治45年	夏の部	巖踏みし足の埃や鮎の宿	鮎	動物